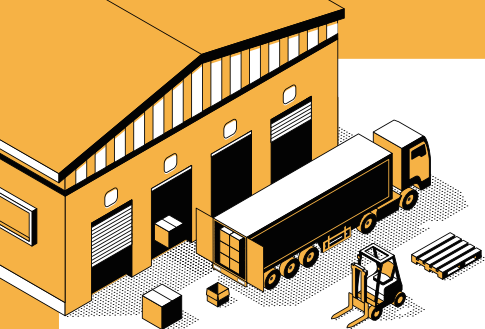




今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進により、物流現場改善は大きなテーマ。ただし、無計画に多額の投資を行ってもなかなか成果は得られません。ここでは、物流現場の課題を知恵と工夫、IT・DXの導入で乗り切っていく改善事例を紹介していきます。

知恵と工夫による事例

「トラック用発泡ボード※の活用」

課題

トラック荷台の積載荷物間に隙間が生じてしまい、輸送中の揺れで荷崩れ、荷ずれが発生してしまった。その対策として発泡スチロールを緩衝材として用いているが再利用しにくく、またコストもかかってしまった。

対策

発泡スチロールの代わりにトラック用発泡ボードを活用し、荷崩れ、荷ずれを防ぐことにした。

効果

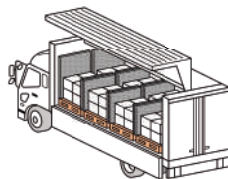
- ・再利用が可能で、緩衝材の買い増しにかかるコストを削減。
- ・割れにくく耐久性が高く、取り扱いやすい。

〈改善前〉

荷崩れ防止のため緩衝材として発泡スチロールを使用しているが、使い捨てになりやすくコストもかかった。

〈対策・効果〉

耐久性が高く、再利用できるトラック用発泡ボードの採用により、コストを削減。



※トラック用発泡ボードは荷物の隙間やトラックとの接触面に挟み込んで使用し、荷崩れを防止するものです。

ITを活用する事例

「クラウド型ソフトウェアの導入」

課題

冷凍・冷蔵トラックの、頻繁なドアの開閉により設定温度を保てず、食品の鮮度や品質が落ちてしまう恐れがあった。さらに、HACCPへの対応で輸送中についても温度管理や輸送状況のエビデンス（証明）も求められていた。

対策

位置情報・温度・湿度などのデータが保存されるクラウド型のソフトウェアを導入。温度逸脱が発生した際には、管理者やドライバーの携帯電話にアラートメールを送信するように設定した。

効果

- ・リアルタイムでのトラック荷台の温度管理が可能に。
- ・輸送中における状態管理の効率化や輸送品質の向上を実現。

〈改善前〉

いくつもの小売店舗で行う荷捌き・荷降ろし・納品作業によってドアの開閉が多くなり、荷室内の温度変化が食品の鮮度に悪影響を与える恐れがあった。

〈対策・効果〉

インターネットからリアルタイムでデータの確認が可能となるソフトウェアを導入し、食品品質の維持に寄与。



鈴木 邦成（すずき くにのり）

物流エコノミスト、日本大学教授（在庫・物流管理など担当）、博士（工学）（日本大学）、早稲田大学大学院修士課程修了。日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事。専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』（NTT出版）、『入門 物流（倉庫）作業の標準化』（日刊工業新聞社）。